

「うちわ」を「ほうき」に持ち替えて

2日間で100万人の観客が訪れた「東京高円寺阿波おどり」も、一夜明けた31日早朝には、いつもの静けさが戻っていました。少しだけ違うのが、JR高円寺駅周辺の9カ所に設けられた臨時のごみ集積所に、ごみが山積みになっていることです。ごみは、観客がまちの中の様々な場所でポイ捨てしたもので、日曜日のまつり終了後と今朝早くから、踊りに参加したメンバーなどが広い集めたものです。

「高円寺阿波おどり」は、年々踊り手も観客も増え、今では東京の一大イベントとなっています。今年も8月29日・30日の2日間の開催で、1万人の踊り手と100万人の観客でまちは盛り上がりました。

しかし、毎年のことですが、地元住民には目を覆いたくなるのが、観客などがまちにポイ捨てをしたごみです。

これらのごみは、まつりに参加した踊り手や地元の杉並第八小学校（高円寺南2-40-24）の6年生の児童たちが、日曜日のまつり終了後や翌日の早朝から、うちわをほうきに持ち替え、清掃活動に取り組んでいます。



このボランティアによる清掃活動で、JR高円寺駅の周辺に設けられた9カ所臨時集積所には、2mほどのごみの山が出来上がりました。その大半はボランティアが集めてきた観客などがポイ捨てした空き缶や食器トレーなどですが、便乗した形でパソコンや家具、カーペットなどの家庭ごみなども目につきます。

こうした光景は今年だけのことではなく、ここ数年の問題で、先月21日には、区立杉並第八小学校の6年生や保護者など30名ほどが区役所を訪ね、田中区長にまちの美化に対する協力を要請しました。その要請は、こうしたポイ捨てされたごみや便乗して不法に廃棄される粗大ごみを目にしたくないとの思いから行われたもので、区長の要請のほかに、子どもたちは、会場周辺の飲食店に対してごみの管理をしっかりと行ってもらうよう、チラシやポスターで案内などを行いました。子どもたちからの要請を受けて、多くの飲食店などはごみの適正管理・排出に協力をしましたが、残念ながらごみの山をすべてなくすことは来年へ持ち越しとなりました。